



米工 MAKERS

米工通信 第312号

令和6年10月4日

鳥取県立米子工業高等学校

担当者 橋本 隆宏

9月28日(土)、米工祭最終日、文化の部において5つの団体にブースを開いて頂きました。
以下にブースの内容と様子を紹介します。

業界団体ブース

運輸 JR西日本中国統括本部

鉄道の仕事紹介(車両・保線・電気の仕事)と作業で使用する道具等が紹介をされていました。体験コーナーでは、ボルトの緩みをハンマーで叩いて確認する、打音検査が行われていました。緩んでいると「ドンドン」と鈍い音が鳴り、閉まっていると「カンカン」と高い音が響いていました。体験していた小学生は、全て当て、「100点 //」と喜んでいました。将来、優秀な技術者になるかもしれません。



自動車整備 鳥取県自動車整備振興会

ボルト当てクイズやタイヤ交換体験、VRゴーグルを使った3D整備工場の視聴などが行われていました。ボルト当てクイズは、パズルを組み立てた後、そこに合うボルトを選んで取り付けるというものでした。小学生や中学生が、真剣に取り組んでいる姿が見られました。タイヤ交換では、ボルトを仮止めした後、締め付けが規定値になると「ピー」と音の鳴るトルクレンチで増し締めをしていましたが、中学生も上手に取り付けていました。



建築 鳥取県建築士会

折り紙建築や曲木のブレスレット製作、VRゴーグルでの3Dモデルハウス体験などが行われていました。折り紙建築は、カッターナイフを使い、1枚の紙から立体的な建物(仁風閣や米子市公会堂など)が出来上がるものでした。参加されている方も「楽しいです」と言っておられました。ブレスレット製作は、ブナの木を濡れた布とアルミホイルで包み、アイロンで2分間暖めた後、丸い輪っかにするというものでした。



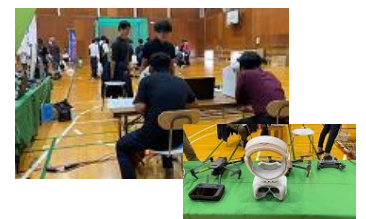
建設 鳥取県西部建設業協会 青年部会

ドローンの現場での使用映像の上映や、ドローンサッカー体験などが行われていました。ドローンサッカーは、球状のプラスチックフレームに覆われたボール型ドローンを使用し、リング状のゴールに入れることで得点を競う競技のようです。中学生の参加者が多く訪れており、上手に操作をしていました。現在は、建設現場でも点検やデータ収集などでドローンが使用されています。



鳥取県産業教育振興会 学校法人柳心学園 産業免許スクール

動体視力や夜間視力の検査体験や資格の紹介、ドローンの展示などが行われていました。とても大きなドローンが展示されており、モニターには、山の中で段ボール箱を下す様子などが映されていました。また、VRゴーグルをかけると、ドローンに取り付けられているカメラからの映像を見ることができました。外で飛ばせば、上空の様子などがリアルに見えるのだろうと思いました。



今回、大人の方以外にも、小学生から高校生まで多くの児童生徒が参加していました。5つのブースで体験した子供たちが、将来、地域を担う人材として活躍してくれるかもしれません。



米工 HP